文芸欄

俳句



宝愛句らぶ（中央区）
風ぬるし大和の春の兆しかな　和子
春寒し二度寝の心地夢ごこち　悦子
黄水仙首長コップに香を放つ　千枝子
顔晴るる顔の輝き春立ちぬ　静
来し方を語りつ夫と雛飾る　道子
春寒や行き交う老いの笑み優し　丘
面接を終へて街路の春寒し　和志

梅の美会（兵庫区）
梅咲いてよき知らせ待つ祈りつつ　藤井　歌子
生足（なまあし）がいっそう長く春隣　山田　朝子
パンジーや花だん管理はシニアの手　粟野　富江

高原ささゆり会（北区）
篝火や水面の鵜たち健気（けなげ）なり　南　久美子
年とればジャネーの法則節分会　笠井　照子
鬼居るよ節分鰯あたま消ゆ　尾崎　順子
春泥やはずむ二人の靴の跡　若林　節子
踏んじゃだめ蕾顔出す福寿草　佐藤かなめ
村の辻櫻（はな）を愛でての長話し　松村二三枝
寄り道は姫踊り子草の咲く空き地　中井　裕子
キリギリス鼻水垂らし薪を割り　佐藤伸二郎

ひまわり句会（北区）
しみじみと老いたる手なり賀状かく　辻　寿賀子
蕗のとうまだかまだかと待つ日々や　石井　敏子

ひよどり台句会（北区）
軋みたる冷たき廊下納骨す　金田美恵子
車窓への日差し背に受け春近し　塩見　光子
白山の雪解の沼に座禅草　田中　弘子
雪だるま連れ一番に登校す　中井　光子

春めきて庭師の鋏リズムよく　矢谷登美子
書初めの止めとはらいをくりかえし　筒井　豊子

見山台新樹会（北区）
蕗味噌（ふきみそ）や酸（すい）も甘いも知る齢（よわい）い　石本　宏一
ものの芽やみなそれぞれにある素顔　貞永　弘子
夕小径（こみち）手を振る友の冬帽子　松隈　弘子
午年の春に馬齢の卒寿かな　高石　勝行
ふくら雀あまた静かに梅の枝　佐溝満喜子

五色山健寿会（垂水区）
寒行の朗々として遠ざかる　智子
春立つや山柔らかに少女めく　眞みこ
如月の風まつすぐに海へ抜け　波音
墨絵の世界久々に牡丹雪　くに子
吊革の手と手は白し浅き春　毬花
春立つや水切り石の八艘飛び　淡峡

桃山台クラブ文芸部（垂水区）
十八の入試投票板挟み　田畑美恵子
やっと観た西で輝くスノームーン　大上　昭敏

きらく句会（西区）
暮れる陽を余さずまとい実南天　森本　珠美
どんど焼きふるまい求め長い列　阪本　道子
退院を祝うが如し梅二輪　喜田　弘征
人の声満ち満ちて来る梅林　尾上　正紀
年男めでたく祝い感謝して　伊藤貴美子
週一のヨガ教室は外は雪　栗崎　節子
敗残やお前もさうか恋の猫　廣　常憲



◆個人
雪山や背に熱き技スケーター（灘）　福井　悦子
冬ざるる石を積み上げ恐山（須）　福本　和恵



川柳

深江親交クラブ（東灘区）
血圧上昇小心者の春の旅　小田　節子
桜のピンク菜の花黄色は癒しカラー　辻本美佳子
指体操童心にかえってデイサービス　津田　正江
一寸待ってなかなか出来ぬ身仕度が　東方　輝子
テレビ見て話しかける母の声　林　芳一
怒りの拳卒寿過ぎれば弱いグー　増田　芳之
電車乗りみんな下向くスマホかな　三島　茂子
目を醒す時計の針が眞夜中だ　村瀬　武子
それ出来ぬ逃げる心に年数え　森　和子
週いちパワー全開デイサービス　森元　弘美

筑栄会（北区）
温暖化雪かきスコップ出番なし　三茶
宮大工指の先まで道具となる　菜々
もらえぬ子親がこっそりチョコ用意　ポン
姉（あね）さんと猪口でやりとりうぶな俺　かほう
いま散歩やがて徘徊この町で　あきら
有明の月と道連れウォーキング　せい
ほめられて心ほんわかときめいて　まさこ
ロウバイの香りほのかに春はすぐ　かをる

◆個人
元旦の厄落としせず金おとす（東）　早川キミエ
うまい米風呂は薬湯（やくとう）マイライフ（北）　北野　利一
セルフレジ見かねた人の助け舟（須）　久山　節子
桜より先に嗅ぎたい釘煮の香（垂）　小髙　肇

短歌

高原ささゆり会（北区）
キミは誰？庭に降りくる雀にも
　ママンの付けた名がきっとある　中井　裕子
君といた何気ない日々懐かしく
　写真の笑顔幸せの時間（とき）　箱守喜久子

◆個人
脳内に削除のボタンあるならば
　あれこれ一寸（ちょっと）押したい気分（須）　江口　啓子
山笑う色とりどりの花見山
　貴方に見せてあげたくて（須）　蔭山　宮子
あの夏の十日ばかりを空き家借り
　海辺のバカンス志摩の外海（西）　増田　當代
和歌山へ賑やか笑顔バス二台
　三社詣りは親睦深む（西）　吉野　洋子

◆投稿募集◆
文芸欄への投稿をお待ちしています。皆さまの作品をお寄せください。
作品、住所、電話番号、単位クラブ名、お名前を必ずご記入ください。
（投稿先）
〒650－0016
神戸市中央区橘通3丁目4-1
KOBEシニアクラブ事務局「広報紙〇〇係」
FAX　341－8524
※〇〇は（俳句・短歌・川柳）等

とっておきの作品



【中央区】生田新生クラブ　四井　汀花